開導聖人を支えたご信者物語 第6回

開導聖人のご生前中（生きていたとき）、またご遷化（位の高い僧が亡くなる）後も、佛立講を支えてご奉公に励まれた御牧家。一族一統を盛り立て、御題目のご信心が弘まるようにと励まれ、その一族のご信心の始めとなったのが、二代目・御牧卯兵衛さんなんだよ。今回は、二代目・卯兵衛さんから、多くの御講有（佛立宗の最高位の僧）が生まれたお話をするね。

御牧卯兵衛 ①

初代・御牧卯兵衛さんは、近江国（滋賀県）の大津追分という所で米問屋の商売をしていたんだよ。妻のたけとの間に一男三女の子どもがいたんだ。

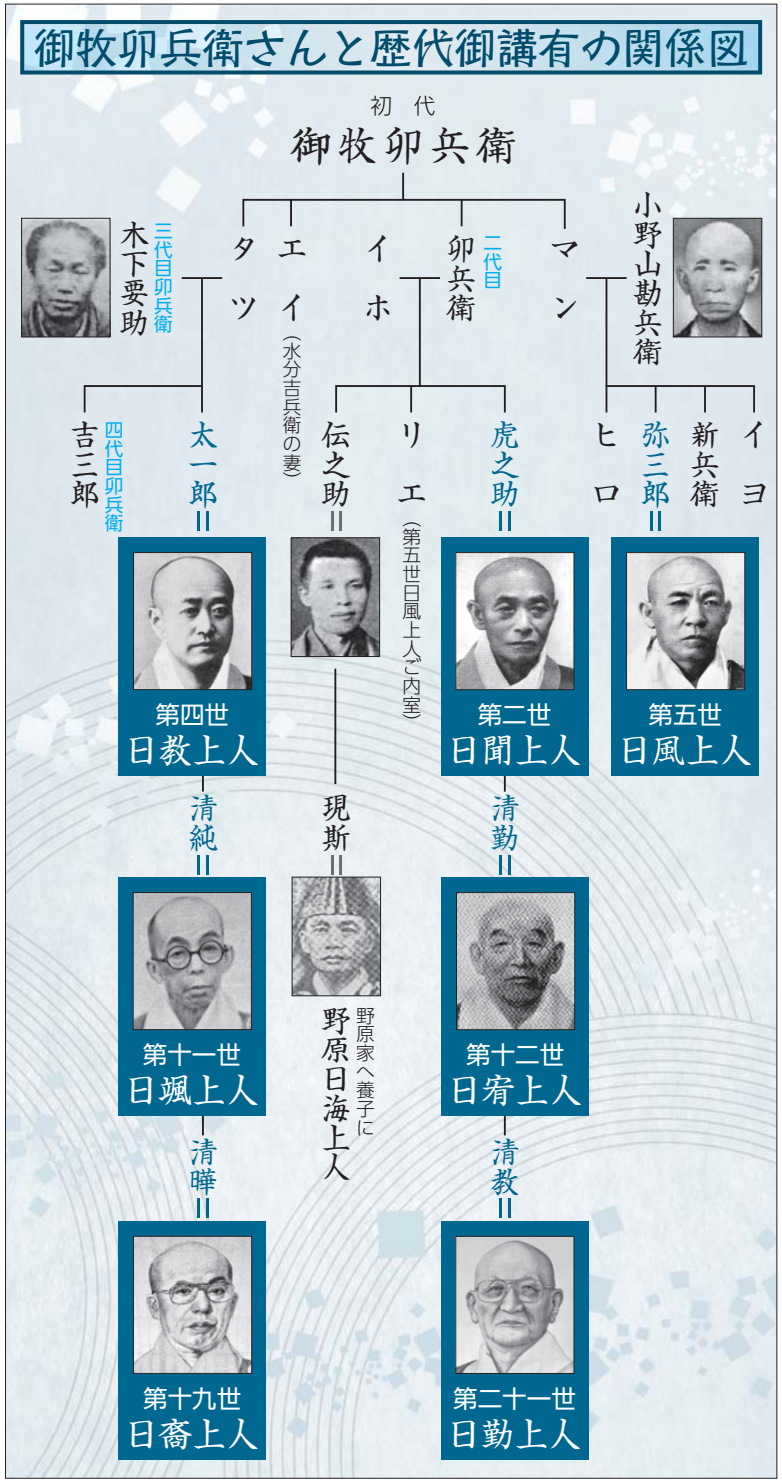
長女のマンは、大津追分で酒造業（お酒造り）の小野山勘兵衛さん（平成二十七年十月号の「開導日扇聖人物語」を読んでみてね）と結婚して、二男二女の子どもをもうけるんだ。

長男（二代目・卯兵衛）には、妻のイホとの間に二男一女が生まれたんだよ。二代目・卯兵衛さんの長男の虎之助は、開導聖人のお弟子となって「現喜」と名前を付けていただいたんだ。のちの第二世講有・日聞上人のことなんだね。長女のリエは、第五世日風上人の奥さんになるんだ。そして次男の伝之助の息子（現斯）は、野原家（第三世日隨上人の家）の養子（血のつながりはないが自分の子とする）となった野原日海上人（誕生寺・第二世住職）なんだよ。

次女のエイは、ご信者の水分吉兵衛さんと結婚。三女のタツは、木下要助さんに嫁ぐ（よめに行く）んだね。だけど、卯兵衛（二代目）さんが亡くなり、その長男の虎之助が出家得度（僧になること）していたので、木下要助夫妻が御牧家に入り、要助さんが三代目の「卯兵衛」の名前を継ぐことになったんだよ。

この三代目・卯兵衛さんには、十三人の子どもがあって、長男の太一郎は「現隨」と開導聖人から名前を付けてもらい出家得度、のちの第四世日教上人だね。

左の関係図を見てもわかるように、御講有になられた方だけでも、第二世日聞上人、第四世日教上人、第五世日風上人、第十一世日颯上人、第十二世日宥上人、第十九世日裔上人、第二十一世日勤上人と七名の御講有上人がおられ、ほかにも野原日海上人はじめ、佛立講の発展（盛んになり栄える）のために活躍（大いに活動する）されたお教務方が、たくさん出ているんだね。

こんなふうに、佛立講の始めから現代まで続く強いご信心のもと（基礎、土台）をきづかれた二代目・卯兵衛さんは、本当に凄いご信者さんだったんだね。

御牧卯兵衛さんと歴代御講有の関係図